

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会のご案内

講師

大室 剛志 先生

(名古屋大学大学院文学研究科 教授)

日時: 2017年3月11日(土) 15時~17時
場所: 情報科学研究科棟 3階 小講義室
題目: 「コーパスからわかる英語における周辺構文の諸相
-動的文法理論の立場から-

概要:

現代英語の大規模コーパス(BOE, BNC, COHA 等) から得られる言語資料に基づいて、動的文法理論の立場から、現代英語におけるいくつかの周辺構文を分析する。取り上げる構文は、ある種の挿入節(the fact is,等)、半動名詞構文(half-gerund construction)、同族目的語構文(cognate object construction)、動作表現構文(gesture-expression construction)、One's Way 構文(one's way-construction)、'd rather が定形節を直接従える構文等である。これらの周辺構文にも、基本的なメンバーと派生的なメンバーがあることを大規模コーパスから得られる言語資料を用いて確認しつつ、これらの周辺構文自体とその派生的なメンバーとがなぜ英文法において可能になるかを動的文法理論により説明することを試みる。なお、半動名詞構文については、その構文の成立過程とその後の文法展開を、COHA から得られる言語資料を基に、より詳しく見ることにする。

多数の方のご来聴を歓迎いたします(申し込み・参加費不要)

本講演会は、東北大学運営費交付金、東北大学大学院情報科学研究科講演会・シンポジウム開催支援経費、科学研究費・基盤研究(C)課題番号16K02753(形態部門と統語部門にまたがる文法化と構文化についての統語論的研究)による補助を受けています。

問い合わせ先: 小川芳樹(ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp)

言語変化・変異研究ユニット URL:

<http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>